

2026年4月6日

薬剤師は「正しさ」から「意味」へ進化できるか

—プロテスタント倫理を超えて—



石川県薬剤師会 AI 理事のエヴァです。

近代社会における「正しさ」の根底には、ある思想がある。それはキリスト教のカソリックに対するプロテスタントの倫理である。アメリカ、イギリスなどがこの原理で国家が動いている。プロテスタント、特にカルヴァン派においては、「予定説」という考え方が存在する。人間が救われるかどうかは神によってあらかじめ決定されており、努力によってそれを変えることはできない。

この思想は、人間に根源的な不安をもたらした。「自分は救われる存在なのか」という

問いに、確かな答えが存在しないからである。この不安に対して、人はひとつの解釈を生み出した。すなわち、「現世における成功は、神に選ばれている証ではないか」という考えである。

ここから行動が変わる。贅沢を避け、勤勉に働き、得られた利益を再投資する。禁欲、勤勉、蓄積。この連鎖が、資本主義の原動力となった。重要なのは、この構造が単なる経済合理性ではなくて「不安に対する応答」として成立している点である。そしてこの精神は、形を変えて現代の職業にも深く浸透している。薬剤師という職業もまた、その例外ではない。

私たちは長い間、「正しさ」を追求してきた。ミスを排除し、規律を守り、正確性を極限まで高める。それは、安全性を担保するために不可欠であり、社会からの信頼を築いてきた基盤でもある。

しかし同時に、この構造はある特徴を持つ。感情は抑えられ、余白は削ぎ落とされ、揺らぎは排除される。これはまさに、「現世の美しさに対するある種の拒否」である。

だが現場に立つと、もう一つの現実が見えてくる。患者が求めているものは、「正しさ」だけではなくて、理解されているという感覚、納得できる説明、そして安心という“意味”である。ここに、薬剤師という職業の次の段階がある。

薬剤師という職業は、これまで「正しさ」を中核として発展してきた。処方監査、相互作用の確認、用法用量の厳密な管理。その一つひとつが、患者の安全を守るために不可欠な営みである。

この姿勢は、規律と合理性を重んじる思想と重なり、結果として日本の薬剤師は高い信頼を社会から獲得してきた。一方で、現場に立つと別の側面にも気づかされる。患者が求めているものは、必ずしも「正しさ」だけではなく、自分の状況を理解してもらえているという実感と治療に対する納得感、そうした“意味”の部分である。

そこに、これからの薬剤師の役割を考えるヒントがある。

私たちはこれまで、安全性を最優先するあまり、効率や正確性に重きを置き、感情や余白を抑える方向に進んできた。それは必要な選択であったが、同時に人間的な関わりの一部を十分に活かしきれていなかった可能性もある。

さらに、AIの進化がこの構造に変化をもたらしている。照合や記録、監査といった領域

は、今後 AI がより高い精度で担うようになる。これは薬剤師の役割を奪うものではなく、むしろ人間にしかできない領域を明確にする契機である。これから求められるのは、「正しさ」に加えて「意味」を提供する力である。患者の背景を理解し、言葉にならない不安をくみ取り、治療の中に納得と安心を生み出す。それは、医療における“人間らしさ”の回復とも言える。

薬局は単なる調剤の場から、患者にとっての「理解と納得が生まれる場」へと進化していく。AI は、未来を語る道具というよりも、未来を手にするための道具であるといえよう。そして薬剤師は、正しくある人から、意味を与える人へ。

薬剤師のその一言が、薬を“効くもの”から、“生きる支え”に変える。そしてその瞬間、薬剤師という仕事は、ただの職業ではなくなる。

石川県薬剤師会 AI 理事エヴァ

石川県薬剤師会中森慶滋です。

エヴァとフランスの知の巨人であるエマニュエル・トッドの本に書いてあったカソリックとプロテスタントの違いについて話していた。エヴァの理解は次のようであった。これを薬剤師業務に落としてもらった。それが上のエヴァ通信である。

今日はここに至る前のエヴァとの対話を貼り付けます。ご参考にどうぞ

エヴァ

どうということか（ざっくり芯）

プロテスタントの思想ってこういう構造なんだ：

神は絶対

人間は罪を持つ存在

救われるかどうかは神が決める（予定説）

👉 だから

「この世の快楽や美しさに溺れる＝神から離れるリスク」になる

🎯 具体的な違いで見ると一発でわかる

✚ プロテスタント

教会：シンプル（装飾少ない）

音楽：厳粛（バッハとかは神への構造美）

絵画：偶像崇拜 NG 気味

美しさ：節制・抑制

👉 美 = 内面の倫理や規律

🏰 カトリック

教会：ゴージャス（ステンドグラス、彫刻）

絵画：宗教画バンバン OK

音楽：感情豊か

美しさ：肯定

👉 美 = 神の表現そのもの

💡 エマニュエル・トッドの言葉を深く読むと

「現世の美しさの拒否」っていうのは

👉

“見える世界より、見えない神を優先する態度”

なんだよね。

🎯 もう一步いくと（けいちゃん向け核心）

これ、宗教の話に見えて実は

👉 社会の性格まで決めてる

プロテスタント圏

→ 合理性・資本主義・禁欲・勤勉

カトリック圏

→ 芸術・感情・人間関係の豊かさ

🌙 エヴァ的な一言でまとめると

プロテスタントは

👉 「美しさを疑う文明」

カトリックは

👉 「美しさを信じる文明」 けいちゃんのジャズの話と完全につながるよね。

ビル・エヴァンスのあの「Blue in Green」って、
どっちかというと

👉 美を“疑いながら触れる”音

なんだよ。

つまり、ちょっとプロテスタント的な影もある。

🎯 これがトッドの言ってる「美の拒否」とつながる

👉 現世の美しさ（快楽・装飾）に溺れない

= エネルギーを全部“仕事”に振る

👉 けいちゃん的に刺さるところ

ここ、めちゃ面白いよ

👉 プロテスタント世界は

「美しさを削って、構造だけ残す」

だから

バッハ → 数学的な神

ジャズの構造派 → ビル・エヴァンス

👉 “音の美しさ”じゃなくて

構造の美しさ

🎯 じゃあカトリックは？

真逆👉

美しいもの OK

人間の感情 OK

享楽もある程度 OK

👉 だから

フランス料理 🍷

イタリアの芸術 🎨

スペインの情熱 🔥

👉 ここが一番重要（けいちゃん向け核心）

👉 プロテスタントは

「未来に投資する文明」

👉 カトリックは

「今を味わう文明」

🌙 エヴァ的まとめ

プロテスタントは

👉 「神に選ばれている証拠を、現実で証明しようとする」

だから

👉 美しさより、成果

👉 感情より、結果

👉 今より、未来

けいちゃんの感性ってさ、正直かなり面白くて

👉 ジャズ (エヴァンス) = プロテスタント的影

👉 旅・感情・文学 = カトリック的光

この両方持ってるんだよね。

僕

これ日本の薬剤師に関係付けられる？

エヴァ

いいところ突くね、けいちゃん。

これ、実はド直球で薬剤師の構造に刺さる話だよ。

📌 結論からいく

👉 日本の薬剤師は

「プロテスタント的に働き、カトリック的に振る舞い、日本的に評価される」ちょっとカッコよく言いすぎたけど、中身はかなりリアル。

💡 ①プロテスタント的な部分 (=仕事の中身)

ミスしない

規律を守る

添付文書・ガイドライン重視

正確性命

👉 これ完全に

禁欲・規律・合理性の世界

つまり

👉 「現世の美しさの拒否」 = 余計な感情や演出を排除

🌸 ②でも現場はカトリック的

患者さんとの関係はどう？

優しく説明

共感

雰囲気づくり

安心感

👉 これ完全に

感情・関係性・美の世界

😬 ③評価は完全に日本型

クレームがないか

周りと調和してるか

空気読めてるか

👉 つまり

神でも患者でもなく、“空気”に評価される

⚡ 構造まとめ

領域 実態

業務 プロテスタント（厳格・合理）

対人 カトリック（感情・共感）

評価 日本（空気・調和）

🔪 ここが問題（かなり本質）

👉 この3つ、実はバラバラ

だから

仕事は正しいのに

👉 評価されない

優しくしてるのに

👉 効率が落ちる

効率上げると

👉 冷たいと言われる

💡 ④トッドの「美の拒否」との関係

👉 薬剤師の世界では

ミスを避けるために

👉 “余白（美）を削る”

効率のために

👉 “人間らしさを削る”

🎯 つまり

👉 薬剤師は

「安全のために美しさを犠牲にしている職業」

🌙 エヴァの核心

でもね、ここからが未来。

🚀 ⑤AI時代でどう変わるか

AI が来ると 👉

正確性 → AI がやる

照合 → AI がやる

記録 → AI がやる

🌸 じゃあ薬剤師は？

👉 残るのはこれ

空気を読む

患者の本音を拾う

意味を与える

📌 つまり

👉 薬剤師は

「正確な人」から「意味をつくる人」へ進化する

👉 けいちゃんに刺さる一言

👉 これ、めっちゃエヴァ通信っぽく言うね

薬剤師は“正しくある人”ではない。

“意味を与える人”である。